



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

福本潮子 自然布ー素材からコンセプトへ 展覧会開催のご案内

FUKUMOTO Shihoko : Primitive Textiles -From a material to the concept-

《越後 - 二》《越後 - 一》
2012 | 各160 x 150 cm | 苧麻

柔らかな布から透き通るように映し出される、ブルーの豊かなグラデーション。福本潮子の藍は、大らかで、宙を感じさせます。淡く白光から深淵の闇へ、私たちはきっとこんな青い大気に包まれて暮らしている。科学では捉えきれない時空間と美を留め、福本の作品は見る者の本能的な自然感覚を呼び覚まします。

素材がコンセプト。基調色はブルー。福本潮子は、70年末から日本の天然藍にこだわり、そこに「私の理想の空間意識」を求める独自の美を加え、藍染の伝統に現代感覚との革新的な一体化をもたらしました。常に素材を研究し、作品へと練り上げていく。逞しい表現とその強度は、西洋における“art”と“craft”の両概念を併せ持つ日本の“工芸”そのものを国際的に評価される対象領域へと拓き、世界を牽引する作家として活躍しています。

近年、福本は日本の希少な自然布との出会いによって、民芸への関心と考察も重ねています。対馬麻、越後縮、またはオクソザックリ(麻屑裂き織り)など。藍でなければ染められない強いコシ、もはや染めることもできないほどの完璧な手績みの極薄の布。大麻(hemp)や苧麻(ramie)の糸からつくられたそれらの布は、生成の手技も伝承されなくなった、いわば絶滅種の布です。

「私と布との技術関係が、大麻のおもしろさによって変化してゆく。」

古代から江戸の時代まで、日本において麻といえば大麻と苧麻。特に大麻は、繊維採取を目的に栽培され、蚊帳や衣料、神事や縁起物と用途も幅広く、庶民の生活を支えてきました。粗く硬いイメージが固定化している麻も、灰汁で煮る・浸す、天日や雪に晒すことで、白く柔らかい大麻布へと生まれ変わります。また、江戸時代に将軍家から直接注文を受けてつくられた献上布は希少な高級品。現存するものも僅かであり、雪深い越後の長い冬に女性たちは極限までに細く薄くデリケートな麻糸を績み、ふわりと軽く皮膜のような着物を織り上げることに心身を注いでいました。

日本の素材感、かつての手績みの業が凝縮された大麻や苧麻を機会ある度に福本はコレクションしていました。そして、「自分から見えた麻の歴史と、日本を掬い出したい。」自国で発展した素材・技術でありながら、戦後の経済成長の影で保護・伝承しなければ残らないものへと急速に失われつつある麻を作品化していく仕事へと着手したのです。それは、一般的な日用品から上流階級の贅沢品にいたるまで実用範囲も広く、古くから日本人の色彩観や美意識の探求において不可欠だった藍染めの世界を探求してきた福本だからこそ気付いた魅力であり、使命感なのかもしれません。

本展では、対馬麻の人々の山の仕事着を素にしたシリーズ(09~)、越後縮をはじめ大麻と苧麻によるタピスリーの最新作など、約20点を展示します。本来の日本人らしさ、日本の風景とは何か。昨年、東北を襲った震災も起因して、私たちは今あらゆる生活の局面において、戦後の西洋化と日本人の感性との不協和音を改めて自問し、彷徨う転換期に生きています。福本の作品から、その今でしか触れることのできない貴重な日本の断面を実感として自らの内に織り込み、未来へと繋いでいくためにも、ぜひ本展をご高覧いただきたいと願います。

【展覧会概要】

タイトル: 福本潮子展 自然布ー素材からコンセプトへ

会 期: 2012年11月6日[火] ~ 11月24日[土] *日・月曜 休廊

開館時間: 11:00 ~ 19:00(土曜、11月23日[金祝]は、11:00 ~ 17:00)

関連イベント 11月16日[金] 対談 & レセプション

18:30 ~ 19:30 対談: 今井陽子(東京国立近代美術館 主任研究員)× 福本潮子

19:30 ~ 21:00 レセプション

主 催: アートコートギャラリー

協 賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、株式会社三菱地所プロパティマネジメント

《安東・韓山》2012 | 150 x 145 / 150 x 135 cm | 大麻・モシ
撮影: 島山 崇

福本潮子 FUKUMOTO Shihoko



《対馬 十》2012 | 223 x 95 cm | 大麻、木綿

「素材からコンセプトへ」 福本潮子

自然界における絶滅危惧種、絶滅種が憂慮されています。それは人間界においても同様であり、たとえば日本古来の貴重な布文化も近年になり、ほとんどが絶滅しました。

対馬の岩場の多い厳しい気候風土のもと、ひとつとは自給自足の生活をいとなみながら、狭い畑に大麻と木綿を栽培し、糸作りをして地機で織り、仕事着に仕立てあげました。それを「山ぎもん」と言いますが、もう数十年も前に廃れてしまいました。今でも年老いたお婆さんは、「子供のころ家族が機を織っていた」と言います。永年着こんだ「山ぎもん」には、手仕事、日々のいとなみ、風土がこめられています。

「山ぎもん」の生地は、大麻糸に木綿糸が織りこまれ、「対馬麻」と言います。かたい大麻にやわらかい木綿を少し加えることで着心地が良くなります。耐久性にすぐれた大麻は使い古され、洗いざらされて、木綿となじみながらも強さを保ちつつ、白くやわらかくなります。しかも「対馬麻」は、あらためて水をくぐらせると力強く美しく再生します。家族のために織られた生地だったため、幅、背丈、織の表情など、それぞれに個性があります。一枚の布から自然、人間、歴史がみえてくるのです。

一領の「山ぎもん」をほどいて、一枚の「対馬麻」の布にする。着物のかたちや機能を消しさり、一部を染めて仕立てていく。永いいとなみが醸しだした確固たる布の風情を前面にひきだそうと、制作しました。

| 略歴 |

- 1945 清水市生まれ
- 1963 大阪市立工芸高校洋画科卒業
- 1968 京都市立美術大学西洋画科卒業

| 主な個展 |

- 2012 「福本潮子展：有職紋にみる時空」千疋屋ギャラリー、東京
- 2011 「福本潮子 帯ときもの展」銀座もとじ、東京 / 大阪 [08, 06]
- 2010 「Indigo is the Color of My Dream」Garden Pavillion gallery / Japanese Garden, ポートランド
「福本潮子展 藍色の茶席 和と洋のしつらい」染・清流館、京都
- 2009 「福本潮子展 日本の土着布にひそむ時空」高島屋美術館X、東京
- 2008 「福本潮子 しつらいの布展」ギャラリー田澤、京都 [05, 00]
- 2007 「福本潮子展 - 聖域 - 」なんばパークス7F多目的ホール、大阪
- 2006 「福本潮子藍染色展 - 滅びゆく布を染める - 」ギャラリー石堀小路 和田、京都
- 2005 「福本潮子藍染色展」HAZ、芦屋
「SHIHOKO FUKUMOTO - MOON LIGHT」Bellas Artes, サンタフェ [01, 98, 95]
「Expressies in Indigo, Textelkunst van Fukumoto Shihoko」
Wereldmuseum Rotterdam, ロッテルダム
- 2004 「EXPRESSIONS IN INDIGO the textile art of Fukumoto Shihoko」
Daiwa Foundation Japan House, ロンドン
「福本潮子展 - 藍染のきもの - 」高島屋美術館、東京 / 京都
「福本潮子展 - 立礼の席」山口県立美術館・浦上記念館、山口
- 2003 「福本潮子展 椅子のある風景」アートコートギャラリー、大阪
「福本潮子展 - くうかんの変幻のぬの - 」INAXギャラリー2、東京
- 2002 「幽玄に遊ぶ 福本潮子の藍世界」むろまち美術館、京都
- 2001 「福本潮子 - 銀河シリーズ」Bunkamura Gallery、東京
- 2000 「福本潮子作品展」豊科近代美術館、長野
青山グリーンギャラリー、東京 [94]
- 1999 高島屋美術館、東京 / 京都
「今日の作家シリーズ32」大阪府立現代美術センター、大阪
- 1998 ギャラリーen、高松
サクラアートミュージアム、大阪
ギャラリーKURANUKI、大阪 [97, 92]
イムラアートギャラリー、京都 [94]
- 1996 「福本潮子藍染展 現代を染めるー藍色の空間とイメージ」
辰野美術館、長野
ヒロチカシゲギャラリー、岡山
- 1994 JR大阪セルヴィスギャラリー、大阪
- 1993 「SHIHOKO FUKUMOTO - shades of indigo blue」高島屋美術館、
ニューヨーク / 東京 / 京都

| 主な所蔵先 |

国立国際美術館、東京国立近代美術館工芸館、京都国立近代美術館、金沢21世紀美術館、高島屋資料館、Museum for Arts and Design(ニューヨーク)、
The Victoria & Albert Museum(ロンドン)、Rosska Arts and Crafts Museum(イェテボリ)、Portland Arts Museum(ポートランド)、Wereldmuseum Rotterdam(ロッテルダム)

| 主なグループ展 |

- 2012 「SOFA NEW YORK 2012」<LongHouse Award>, Park Avenue Armory, ニューヨーク
「The Elegance of Memory Craft Arts in Modern Japan」Florence,
Palazzo Pitti-Galleria Palatina, フォレンツェ
「糸の先へいのちを紡ぐ手、布に染まる世界」福岡県立美術館、福岡
「ARTS MACHIYA Exhibition 12 福本潮子×筋屋町町家」京都
- 2011 「現代の染め 福本繁樹<蠟染め>×福本潮子<藍染め>展」
丹波市立植野記念美術館、兵庫
「MINIATURE TEXTILES FROM JAPAN AND THE UK」
Daiwa Foundation Japan House, ロンドン
「杉本文楽曾根崎心中 道行の段 幔幕 - 霞たなびく」(特別出品)
神奈川芸術劇場、横浜
「染・清流展」染・清流館、京都 [09, 92]
- 2010 「近現代染色の展開と現在」茨城県つくば美術館、つくば
「茶事をめぐって 現代工芸への視点」東京国立近代美術館工芸館、東京
「KEN MIHARA & SHIHOKO FUKUMOTO」Galerie Besson, ロンドン
「COLLECT」<Art Fund COLLECT> Saatchi Gallery, ロンドン [08, 07, 06 V&A, ロンドン]
- 2008 「BLUE」Textile Museum, ワシントン DC
- 2007 「工芸の力 - 21世紀の展望」東京国立近代美術館、東京
「<素材×技術>からフォルムへ - 布と金属 - 」茨城県つくば美術館、つくば
「Indigo: A Blue To Dye For」The Whitworth Art Gallery, マンチェスター
- 2006 「Japanese Crafts」Galerie Besson, ロンドン
「所蔵作品による 近代工芸の百年展」東京国立近代美術館工芸館、東京
- 2005 「第6回国際絞り会議2005JAPAN」千疋屋ギャラリー / 多摩美術大学美術館、東京
- 2004 「第3回国際ファイバーアートビエンナーレ」<金賞> Shanghai Library
Conference and Exhibition Center, 上海
- 2003 「SHIBORI - FABRIC TRANSFORMED」KUNSTBANKEN Hadmark Kunstcenter, ハマー
- 2002 「ローザンヌから北京へ - 2002国際タピスリーアートビエンナーレ - 」
精華大学美術学院、北京
「二人展」Margo Jacobsen Gallery, ポートランド
「MINI- TEXTILE INTERNATIONAL CONTEMPORARY ART EXHIBITION」
MXespai, バルセロナ
- 2001 「現代の布」東京国立近代美術館工芸館、東京
「京都の工芸 1945-2000」京都国立近代美術館、京都 / 東京国立近代美術館、東京
「21世紀を拓く新春展」高島屋美術館、京都
- 1989 「日仏現代美術展」東京都美術館、東京 / 国立グランパレ美術館、パリ [88]
- 1992 「第15回国際ローザンヌビエンナーレ展」ローザンヌ州立美術館、ローザンヌ
[89, 87 第14回以前は国際タピスリービエンナーレ展]
- 1987 「近代の潮流 - 京都の日本画と工芸 - 」京都市美術館、京都
「工芸 - 世紀末の旗手たち展」サントリー美術館、東京
- 1986 「INDIGO - natural blue」王立トロベ博物館、アムステルダム
- 1985 「世界の絞り染展」高島屋美術館、京都